

授業概要

家庭の代替としての養護実践について現状と今日的課題を踏まえた上で、実践への応用ができるような知識・視点を身につけ、具体的な事例も取り上げながら専門的な援助方法について学ぶ。

授業計画

第 1 回	児童養護の法的根拠・体系・今日的課題
第 2 回	社会的養護のあり方の現代的方向性
第 3 回	施設養護のあり方 ケアの個別化と小規模化
第 4 回	児童虐待防止法・児童福祉法の改正
第 5 回	基本的人権と子どもの最善の利益
第 6 回	生活支援と学習支援保障
第 7 回	自立支援保障の原則
第 8 回	家庭支援と地域子育て支援
第 9 回	乳幼児・障がい児への特別支援の原則
第 10 回	発達・年齢段階に応じた養護
第 11 回	自立支援計画の作成と実践
第 12 回	危機介入・訪問指導
第 13 回	自立援助と家庭復帰
第 14 回	リービングケアとアフターケア
第 15 回	事例研究とディスカッション
第 16 回	試験

到達目標

- ・教育・支援における養護実践の基本的な視点を身につける。
- ・養護実践の理論と実際を具体的な事例をとおして理解を深める。
- ・個々の発達状況に応じた自立支援について理解を深める。
- ・リービングケア・アフターケアについても理解を深める。

履修上の注意

テキストは「社会的養護」で使用する本と同一ですが追加の資料を配付しさらに深く学びます。
児童養護分野で職員として働く場合をイメージしながら学習してほしい。

予習復習

次回あつかうテキストの該当部分を読み込み、当日の授業で疑問に感じた点を自分なりに調べてみる。

評価方法

毎回出席を基本とし、小レポート、期末テストについて総合的に評価する。

テキスト

山縣文治・林浩泰 編『よくわかる社会的養護 第2版』ミネルヴァ書房